

令和4年度 後期学校評価

伊予市立下灘小学校 令和4年12月

- 【評定基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:8割未満の達成
 【評価基準】 ◎:8割以上が肯定 ○:6割以上が肯定 △:6割未満が肯定
 【アンケート】 4:大変よい 3:よい 2:あまりよくない 1:よくない ?:わからない

※ 複数のアンケート資料がある場合には、それらの評価のうち一番低い評価をもって評定をしている。
 アンケート以外の資料がある場合については、その実現状況を加えて評定している。

| 小項目(重点目標) | 評価指標及び目標値 | 評定 | 学校による考察・改善方策 | 評価資料 | 集計結果(%) | | | | | |
|-------------------|--|----|---|---------------------------------|-------------|----------------|----------------|----------------|---------------|-------------|
| | | | | | 評価 | 4 | 3 | 2 | 1 | ? |
| 「しっかりと考える子」をはぐくむ | 学習道具の準備、話す、聞く等の基本的な学習態度が身に付いているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | B | 教職員50%、児童81%、保護者93%の肯定率であった。2学期当初は、学習態度に個人差があり、素直な気持ちで落ち着いて学習することの大切さを児童が理解し、学習に向かうことができるための手立てが必要であった。そこで、基本的な学習ルールを精選して教室に掲示した。そのことにより、児童の学習態度が少しずつ向上してきている。基本的な学習態度は、学校生活の基本でもあり、全ての児童に身に付いていくように、今後も、学習ルールを守ることへの児童の意識を喚起していきたい。 | 教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート | △ ◎ ◎ | 0 30 40 | 50 51 53 | 33 16 7 | 17 3 0 | 0 0 0 |
| | 学習課題を明確にし、対話的な学習を取り入れた授業改善を行うことにより、読解力や表現力が身に付いているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | B | 教職員83%、児童87%、保護者67%の肯定率で、教職員の肯定率がわずかに低くなった。学習リーダーを中心とした授業を行うなど、複式学級における学習指導について、授業改善に取り組んでいるが、読解力や表現力の向上にすぐに結び付き、結果が現れるものとは言えない。今後は、さらに、学習リーダーの指導とともに、ICTを活用するなどして、学年に応じて指導を続け、対話的な学習を通して読解力や表現力を育てていきたい。また、保護者にも学習の様子を見ていただく機会を設け、複式学級の学習について理解を得るような取組もしていきたい。 | 教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート | ◎ ◎ ○ | 17 58 20 | 66 29 47 | 17 10 33 | 0 3 0 | 0 0 0 |
| | 読書習慣が身に付くように、自分でめあてを決めて進んで読書活動に取り組んでいるか。(自分の決めた冊数の達成) 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | B | 教職員83%、児童80%、保護者68%の肯定率で、教職員、児童は前期より高くなり、保護者は低い数値であった。2学期は、児童一人一人に目標冊数を決めさせて、読書への意欲を高めた結果、教職員、児童の肯定率が高くなったのではないと思われる。しかし、家庭での読書習慣はあまり身に付いていないようだ。3学期も児童に目標冊数を決めさせて、愛媛県立図書館の「まなぼん」等も利用し、児童が意欲的に読書に取り組めるよう声掛けをするとともに、家庭学習パワーアップ週間を通して、家庭との連携をし、家庭での読書習慣が身に付くように働き掛けていきたい。 | 教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート | ◎ ◎ ○ | 17 45 34 | 66 35 34 | 17 10 20 | 0 10 12 | 0 0 0 |
| | 児童一人一人の実態に配慮した授業実践に努めているか。 教職員の80%以上が肯定 | A | 教職員100パーセント、保護者80パーセントの肯定率であった。今年度から全学年複式学級になり、教師は複式授業の研修を進めている。授業中の直接指導・間接指導において教材を工夫し、一人一人の実態に応じた学習のためにタブレット等のICTを活用したり、授業の構成を工夫したりしている。今後も研修を積み重ね、さらに個に応じた授業実践に取り組んでいきたい。また、児童の学力には個人差があるため、授業や朝のじっくりタイムでの個別指導を継続して行っていく必要がある。学年の発達段階に応じた、さらにきめ細かい指導を充実させていきたい。 | 教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート | ◎ △ ◎ | 33 27 | 67 53 | 0 20 | 0 0 | 0 0 |
| 「もくもくとがんばる子」をはぐくむ | 「早寝・早起き・朝ご飯」等の望ましい生活習慣が身に付いているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | A | 教職員、保護者ともに100%の肯定率で、児童は84%の肯定率であった。生活リズムチェックのコメント欄を見ても、生活習慣を良くしようという意識は高いと思われる。児童についてはwithコロナで、習い事等の再開もあり、夜寝る時刻が遅くなる日があるようだ。家庭の協力を得て、習い事等で遅くなる日も早く寝られるよう工夫できるように児童に働き掛けていきたい。 | 教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート | ◎ ◎ ◎ | 17 62 60 | 83 22 40 | 0 13 0 | 0 3 0 | 0 0 0 |
| | 安全への関心を持ち、進んで安全な生活を送ろうとしているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | A | 前期に続き、保護者は100%であった。教職員、児童についてもほとんどが守れていると感じている。ただし、本校近くを通っている国道は、交通量が多い直線道路のため、速度超過した車も多く見られる。事故から命を守るためにも繰り返して何度でも安全について指導していかないといけない。校内においても、一部廊下を走る児童が見られるため家庭と協力して安全な生活について、さらに啓発に努めたい。 | 教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート | ◎ ◎ ◎ | 17 75 53 | 66 22 47 | 17 3 0 | 0 0 0 | 0 0 0 |
| | 体育授業や生活の中で進んで体を動かし、学年の発達段階に応じた体力が身に付いているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | A | 前期に引き続き、教職員、児童、保護者とも高い達成率であった。手洗い、消毒、換気などの感染対策が身に付いてきている。換気や消毒を適宜行っているため、校内で感染症が広がることがなかった。1月にはゴールを設置したので、寒い中でも元気に外でサッカーをする児童が増えている。業間マラソンや縄跳びなど、一人一人が目標を持って取り組めるように指導を続けていきたい。 | 教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート | ◎ ◎ ◎ | 33 80 47 | 67 10 53 | 0 10 0 | 0 0 0 | 0 0 0 |
| | 下灘太鼓の継承・発展に努め、地域を大切に思う気持ちを育成しているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | A | 教職員、児童、保護者いずれも前期と変わらず、ほぼ100%の肯定率であった。週に1回定期的に練習を行うことで、安定した演奏ができるようになってきている。今年度は発表の場があまりなかったが、上級生から下級生へ教え伝えていく中で、母校やふるさとを大事にする児童を育てていきたい。また、持続可能な活動にするため、今後学校ボランティアと連携して、地域の方に指導者として参加していただき、地域移行を図っていきたい。 | 教職員アンケート 児童アンケート 保護者アンケート | ◎ ◎ ◎ | 67 78 40 | 33 19 60 | 0 3 0 | 0 0 0 | 0 0 0 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|--|--|----------|----|----|----|----|---|--|
| 「なかよく明るい子」をはぐくむ | 互いの良さを認め合い、支え合う仲間づくりができていますか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | A | 今回は教職員、児童がともに100%となっている。保護者は7パーセント低下した。今年度から完全複式学級となり、新しいクラスメイトが増えた中でのトラブルや複式学習への不安を感じていることが予想される。今後は、温もりのある学級づくりや学習リーダー育成等による複式学習の仕方の定着を図っていく必要があると考える。 | 教職員アンケート | ◎ | 33 | 67 | 0 | 0 | |
| | 自ら考え、議論する道徳科の授業の創造に努め、発達段階に応じた道徳的な判断力や心情、態度が育っているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | A | 教職員100%、児童87%、保護者94%の肯定率であった。道徳科では、複式学級2学年一斉で学習することで、多様な考えに触れ、道徳的な判断力、心情、態度が育ってきていることが伺える。今後は、さらに道徳科の授業だけでなく、児童の日々の生活の中で道徳的価値に関わる場面を捉え指導していくことで、自分で考え、判断し、実践していく児童を育てていきたい。 | 教職員アンケート | ◎ | 17 | 83 | 0 | 0 | |
| | 挨拶運動を推進し、誰に対しても気持ちのよい挨拶ができる児童が育っているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | B | 教職員50%、児童94%、保護者94%の肯定率であった。児童、保護者に対して教職員の肯定率が低い。挨拶をしようとする児童が多いが、「いつでも、誰にでも、自分から」気持ちの良い挨拶ができるまでには至っていない。今後は、委員会活動を中心にして挨拶がよくできている児童を称揚するとともに、地域の人や来校者に挨拶したり、校内では会釈をしたりするなど、相手や場に応じた挨拶を意識していくよう指導を続け、進んで気持ちの良い挨拶ができる児童を育てていきたい。 | 教職員アンケート | △ | 17 | 33 | 50 | 0 | |
| 「だんだんのびる子」をはぐくむ | ICTの積極的な活用やキャリア教育の充実など、一人一人を大切にした指導を通して、自己肯定感を醸成することができているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | B | 教職員は83%の肯定率であったが、児童の肯定率は約74%となっている。小規模校の特質を生かして、一人一人を大切にした指導に取り組んでいるが、児童の感じ方には個人差があるようだ。2学期は、外部講師のスポーツ選手の方や地域の方との交流や生活科の町探検の学習が、キャリア教育につながった。また、タブレットを活用して個に応じた学びができる活動を授業に取り入れている。児童の自己肯定感の醸成につながるように、今後もこのような取組を続けていきたい。 | 教職員アンケート | ◎ | 33 | 50 | 17 | 0 | |
| | 時と場に応じた適切な言葉遣いができているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | B | 教職員17%、児童90%、保護者100%の肯定率であり、児童、保護者の肯定率と教職員の肯定率に開きがある。場に応じた言葉遣いの見本を掲示し、気持ちの良い言葉遣いができるように指導しているが、教師や来校者に対しては、適切な言葉遣いができるが、児童同士となると、適切とは言えない言葉遣いや態度も見られる。正しい言葉遣いを理解してはいるが、親しさや自分の感情のままに、良くない言葉を発してしまうこともある。今後は、学年に応じて、相手意識を持たせ、時と場に応じた適切な言葉遣いを指導したり称揚したりしていきたい。 | 教職員アンケート | △ | 0 | 17 | 83 | 0 | |
| | 児童理解に努め、児童の変化や悩みに敏速に対応し、全教職員が共通理解のもと、指導、支援に当たっているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | B | 教職員・児童に比べて保護者の達成率が低い。心のアンケート・教育相談等で複式学級での人間関係の悩みを持つ児童が見られた。人間関係の固定化や互いの相性不一致等が原因で、解消するには、時間の掛かるケースもある。生徒指導部会を定期的実施して、情報を全教職員で共有しながら児童の心の変化や悩みに寄り添い、対応を続けている。また、複式での学習の悩みがあったり、落ち着いた環境で生活・学習したいという願いを持っていたりする児童もいる。全ての児童が安心して生活・学習できる環境づくりを目指しながら、今後も、児童一人一人との信頼関係を築き、個に応じた指導・支援を続けていきたい。 | 教職員アンケート | ◎ | 33 | 67 | 0 | 0 | |
| 管理・運営 | 勤務時間・健康管理を意識した働き方の促進に努め、自らの働き方の改善を図っているか。 教職員の80%以上が肯定 | B | 引き続き、新型コロナウイルス対応に伴う業務が増えている。さらに、様々なICT学習システム導入のため、その操作方法を覚えるのにも多大な時間がかかる。教職員一人一人が、早くシステムの操作スキルを身に付け、効率的に業務を進めることができるようになることで負担増加を防ぎたい。ミライムによる出退勤時刻の管理は、勤務時間を意識することができ、長時間労働の是正に一定の効果があると考えられる。また、行事の精選、縮小、会議等の縮減、文書のペーパーレス化や簡素化等に取り組み、更なる改善につなげていきたい。 | 教職員アンケート | ○ | 17 | 50 | 33 | 0 | |
| | 一人一人が自分の役割を自覚し、報告・共通理解・確認を密にしながら組織として対応しているか。 教職員の80%以上が肯定 | B | 今年度、完全複式学級化で、教職員が2名減り、一人当たりの校務分掌がさらに増えている。前期アンケートと比較しても、肯定率が下がっている。日々の慌ただしい環境での勤務によって、他の教職員に相談する時間もなく、一人で業務を抱え込んでいる可能性も考えられる。今後は、教職員同士が意識してお互いに声を掛け合い、業務を複数でこなそうという雰囲気や再構築していく必要がある。 | 教職員アンケート | ○ | 50 | 17 | 33 | 0 | |
| | 避難訓練や防犯訓練などを適切に実施して、児童や教師に安全対応能力が身に付いているか。 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定 | A | 肯定率がほぼ100%で、前期アンケートよりも向上が見られた。起震車体験や抜き打ちでの避難訓練、保護者参加の防災教室などを実施した。訓練実施時には児童はスムーズな避難ができ、災害時の対応能力が高まってきていると思われる。今後は、避難確保計画に基づいた、線状降水帯発生等による土砂災害時の垂直避難についての安全対応能力を身に付けさせたい。 | 教職員アンケート | ◎ | 17 | 83 | 0 | 0 | |
| 会計事務、情報管理の厳正化や綱紀の保持など、服務規律の遵守に努めているか。 教職員の80%以上が肯定 | A | 前期に引き続き、肯定率は100%であった。会計事務については、共同事務室からの指示を受け、手順等を共同事務室の基準に合わせて行っている。各種帳簿等の確認も管理職を中心に複数の教職員で実施している。情報管理については、全教職員でデータ管理の方法等について共通理解を図り、情報漏洩防止を徹底している。不祥事防止のため、随時、職員会や職員朝礼において事例研修、情報提供を行った。また、定期的に不祥事防止チェックシートを活用したセルフチェックも実施した。今後は教育公務員としての自覚を持ち服務規律の遵守に努める。 | 教職員アンケート | ◎ | 50 | 50 | 0 | 0 | | |